

英国での子宮頸がん検診における 看護師の役割

パップスメアからコルポスコーピーまで

講師 Ms. Louise Cadman

通訳・解説 Sharon Hanley 北海道大学大学院医学研究院総合女性医療システム学分野

[日時] ▶▶▶ 8月28日(月) 18:30~20:00

受講費
無料

18:30~18:35 主旨説明 — 工藤里香(京都橘大学)
18:35~19:45 講演 — Ms. Louise Cadman
19:45~20:00 質疑応答

[会場] ▶▶▶ (株)朝日エル大会議室

東京都中央区築地2-12-10 築地MFビル26号館5階

2016年4月、国会答弁にて「医師の指示の下で子宮頸がんの検査のために膈内から細胞を採取することは診療の補助に該当し、看護師が当該行為を業として行うことは可能である」と示され、子宮頸がん検診を、医師の指示の下、看護師が実施しても良いことが明らかになりました。看護師のきめ細やかなケアが、子宮頸がん検診にも期待されています。

この度、すでにスメアテイクヤーとして子宮頸がん検診を実施している英国看護師Ms. Louise Cadmanを講師に迎え、「英国での子宮頸がん検診における看護師の役割」について学ぶ機会を得ました。

看護職が行う婦人科検診に興味のある方のご参加をお待ちしております。



Ms. Louise Cadman

Research Nurse Consultant
Wolfson Institute of Preventative
Medicine
Queen Mary University London

申込み方法：メールにてお名前、ご所属、職種、連絡先アドレスをお知らせください。
(申込みの際の個人情報、申込後の事務連絡、統計資料等の作成に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません)

お問合せ・メールの宛先：kudo-r@tachibana-u.ac.jp

本研究はJSPS科研費16H05253, 17K19851の助成を受けたものです。

This work was supported by JSPS KAKEN Grants: No 16H05253 and 17K19581.

【共催】 一般社団法人 性と健康を考える女性専門家の会

科研費
KAKENHI